

令和2年度東郷町地域支え合い協議体の活動報告

1. 地域支え合い協議体の進捗状況

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域支え合い協議体の開催の見合わせや地域支え合いコーディネーターが地域に出向く機会が上半期は減少したが、情報の整理を中心に行い、下半期は積極的に地域に出向き地域づくりの支援を行った。

【第1層協議体】

8月、10月、12月、1月の合計4回実施。各部署の取組報告、地域支え合いコーディネーターの活動報告を中心とし、情報の共有、助言の場とした。今後も、情報の共有の場として位置づけ、町全体の地域づくりを俯瞰して捉える場として4か月に1回程度開催をする予定。

【第2層協議体】

地域支え合いコーディネーターが各地域の自治会、老人クラブ、通いの場に出向き、情報収集を始め、通いの場等の立ち上げ支援等を実施。町の一般介護予防事業とも連携し、地区のコミセンで地域での支え合いの必要性や通いの場についての周知啓発を実施。

2. 令和2年度の重点目標の評価と今後の方針

(1) 地域での通いの場の充実

新型コロナウイルス感染症の影響で住民主体の活動を始めとする通いの場は、一旦活動が減少したが、令和2年10月中旬から感染症対策を講じた上で活動を再開する団体が多かった。コロナ禍での閉じこもりにより、人とのつながりが減少したことから、感染症対策を講じた上での通いの場を望む声も多くあった。結果、住民主体で活動する補助金の助成団体数が増加し（前年比：＋5団体）、社会参加ポイント登録団体数も増加（前年比：＋14団体）した。

一般介護予防事業と連携し、地区のコミュニティセンターで自治会や地域の方と作り上げる教室「健康たまり場」を実施。健康づくりに関することから、地域の繋がり的重要性などの内容を取り入れ実施。教室終了後も、継続して通える場を設けられるように地域と話し合いをしながら、住民を巻き込んで支援をしていく予定。担い手の発掘や活用できる資源などの情報収集を併せて行う。現在、北山台、白鳥、白土地区で開催。今後新規地区を開拓していく計画。



参考写真：健康たまり場の様子（左：白鳥地区、右：白土地区）

(2) 介護保険外サービス情報冊子の作成

介護保険サービスでは賄えない、ちょっとした困りごとに対応するため、商工会を始めとする民間事業者から情報を収集し、民間事業者を含めた介護保険外サービスをまとめた冊子「とうごうくらしの応援ガイドブック」が令和3年3月に完成。高齢者を支援する地域包括支援センター、ケアマネジャー、民生委員を始め、ひとり暮らし登録の高齢者に配布。今後も継続して情報を収集及び更新をし、幅広く高齢者に配布し活用いただけるように磨きをかける。

(3) 地域の困りごとについて解決を図る

西白土区長からの、高齢者のゴミ出し支援の相談をきっかけに、西白土地区の地域づくりの活動支援を実施。

高齢者のニーズを把握するため、アンケート調査を実施。アンケートを回収することを目的とし、茶話会「ふれあいカフェ」を実施したところ盛況であった。アンケート結果からも、茶話会などの地域の人と交流できる場があるとよいという意見もあったことから、定期的にふれあいカフェが開催できるように話し合いを重ねた。令和3年2月、3月にプレオープンを行い、令和3年4月から住民主体でのふれあいカフェが始動。買い物支援の一環として、軽トラ市ともタイアップして開催。今後は、さらに地域の繋がりを強めるため、住民主体の地域支え合い活動の立ち上げ支援を実施する予定。



参考写真：西白土ふれあいカフェの様子

令和3年4月21日

中日新聞に
掲載されました